

経営比較分析表（令和元年度決算）

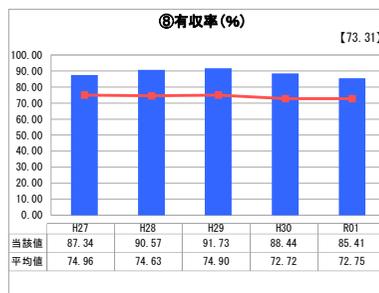
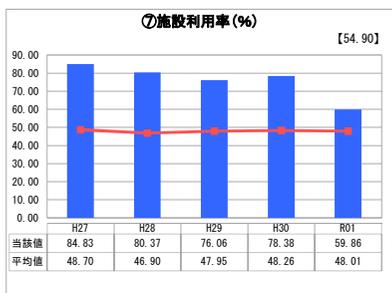
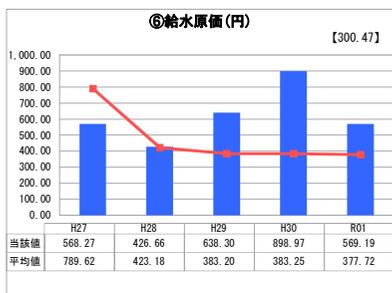
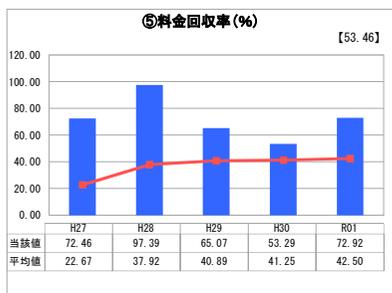
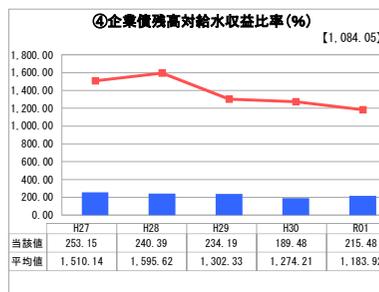
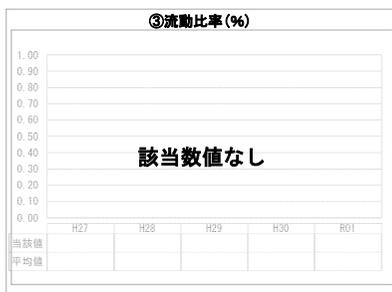
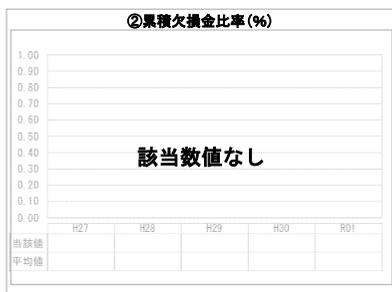
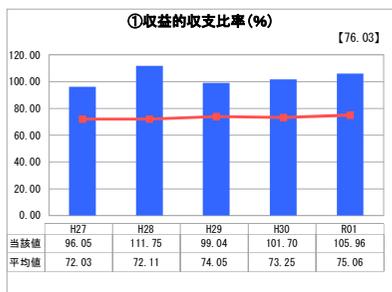
沖縄県 北大東村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	該当数値なし	100.00	7,910	

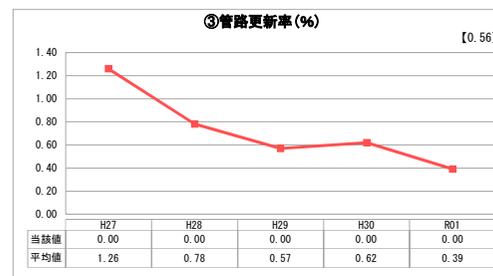
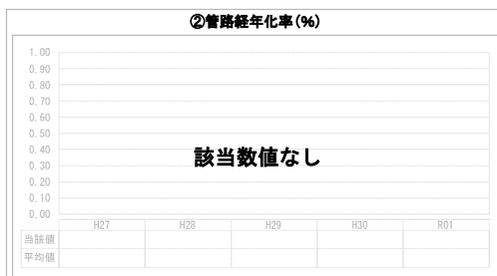
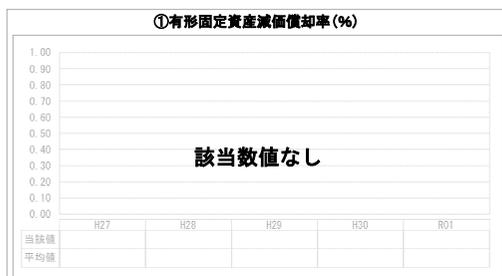
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
589	13.07	45.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
566	12.71	44.53

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率
収益的収支比率は、100%を下回っていないことから経営損失が生じてはいないため下回らないよう維持していきたい。また、令和2年度から広域化に伴い浄水施設の管理を企業局が行うため、施設の維持管理費用の削減により収益的収支比率は上がる見込みである。
- 企業債務高対給水収益比率
令和12年度の返済に向け減少傾向にあるが、広域化に伴い老朽化した配水管の更新工事を行うため今後、増加していく。
- 料金回収率
本村は、沖縄県内でも一番水道料金が安く村民の負担が大きいため一般会計から繰入をしないと運営が難しい状況である。令和2年度より広域化に伴い料金の改定を検討する。
- 給水原価
施設の維持管理コストが高いため給水原価は対状況にある。令和2年度からは企業局から受水するため給水原価が下がる見込みである。
- 施設利用率
施設の老朽化に伴い機械の故障等の修繕で施設の利用率が下がっていると見込まれる。令和2年度からは広域化に伴い施設廃止により利用率も上がると見込まれる。
- 有収率
管路の老朽化等で漏水等による無効水量が多い有収率が下がっている。今後は、広域化に合わせて配水管の更新を行い、有収率の向上に努める。

2. 老朽化の状況について

昭和59年度の布設から管路の更新は行っておらず、経年劣化による漏水の恐れがあるため、平成30年度から令和7年度の7年間で配水管の更新を行う。浄水施設に関しては、企業局が新たに施設を新設し運営、管理を行うため、村の浄水施設は廃止となる。

全体総括

施設の老朽化により維持管理費のコストが高く繰入等を行わないと運営が難しい状況にあったが、令和2年度から広域化により浄水施設の廃止による維持管理コストの削減で新たな運営方法になるため経営分析を徹底し、安全で安心な水の供給が行えるように努める。